

尋常小學唱歌

第一學年用

文部省

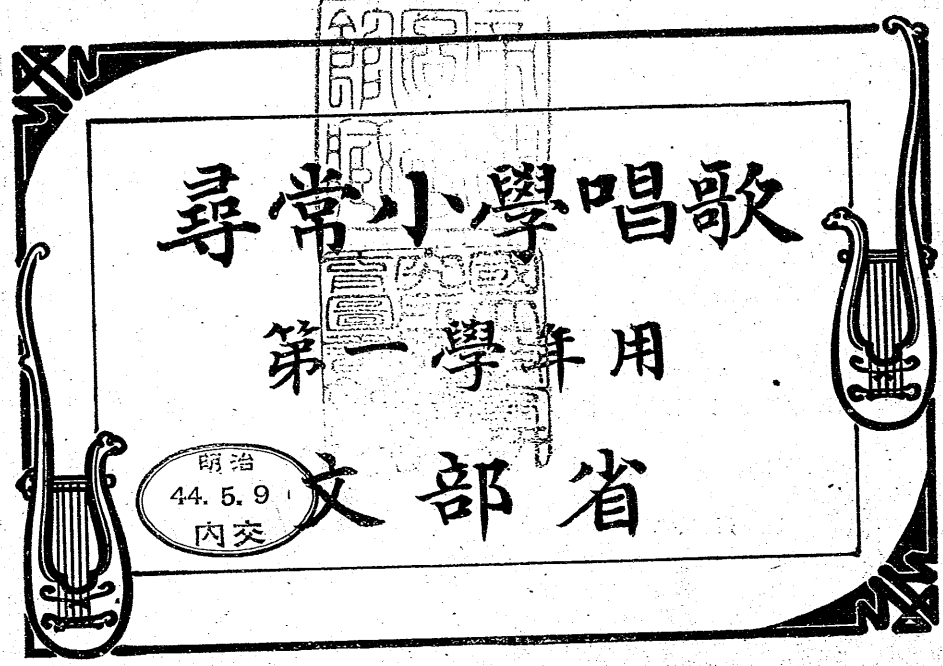


尋常小學唱歌

第一學年用

明治
44. 5. 9
丙交

文部省



緒 言

- 一、本書ハ本省内ニ設置セル小學校唱歌教科書編纂委員ヲシテ編纂セシメタルモノナリ。
- 二、本書ノ歌詞中、尋常小學讀本所載以外ノモノニ就キテハ、修身・國語・歴史・地理・理科・實業等諸種ノ方面ニ涉リテ適當ナル題材ヲ求メ、文體用語等ハ成ルベク讀本ト歩調ヲ一ニセンコトヲ期セリ。
- 三、本書ノ曲譜ハ排列上其ノ程度ニ就キテ多少難易ノ順ヲ追ハザルモノナキニアラズ、是其ノ歌詞ノ性質上已ムヲ得ザルニ出デタルナリ。

明治四十四年二月

文 部 省

目 次

一 日の丸の旗.....	2	一 池の鯉.....	22
二 鳩.....	4	二 親の恩.....	24
三 おきやがりこほし.....	6	三 鳥.....	26
四 人形.....	8	四 菊の花.....	28
五 ひよこ.....	10	五 月.....	30
六 かたつむり.....	12	六 木の葉.....	32
七 牛若丸.....	14	七 兎.....	34
八 夕立.....	16	八 紙鳶の歌.....	36
九 桃太郎.....	18	九 犬.....	38
一〇 朝顔.....	20	一〇 花咲爺.....	40

日の丸の旗

♩=108



一 シロ デニ アカ ク ヒノ マル ソメテ
二 あさ ひの のぼ る いきほひみせて



二 ア ア ウツ クシ ヤ ニホ ンノ ハタ ハ
あ あ いさ まし や にほ んの はた は

一、日の丸の旗

一、白地に赤く

日の丸染めて、

あうつくしや、

日本の旗は。

二朝日の昇る

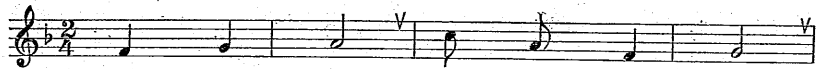
勢を見せて、

あ勇ましや、

日本の旗は。

♩=96

鳩



一 ボツ ボツ ボ ハ ト ボツ ボ
二 ぼつ ぼつ ぼ は と ぼつ ぼ



マ メ ガ ホ シ イ カ ソ ラ ヤ ル ズ
ま め は う ま い か た べ た な ら



ミ ン ナ デ ナ カ ヨ ク タ ベ ニ コ イ
い ち ど に そ ろ つ て と ん で い け

三 鳩

一 ぼつ ぼつ ぼ

鳩 ぼつ ぼ

豆がほしいか、
そらやるぞ。

みんなで仲善く

食べに來い。

二 ぼつ ぼつ ぼ

鳩 ぼつ ぼ

豆はうまいか、

食べたなら、

一度にそろつて

飛んで行き。

三 おきやがりこぼし

一、投り出されてころく轉び、
 體ゆすつてむつくと起きて、
 あちらを向いて黙つてすわる。
 おきやがりこぼしはおもしろい。
 二、幾度投けても何時でもおきる。
 體ゆすつてむつくと起きて、
 こちらを向いて人をばにらむ。
 おきやがりこぼしはをかしいな。

おきやがりこぼし

♩=100

おきやがりこぼし

一 ハ フ リ ダ サ レ テ コ ロ コ ロ コ ロ ビ
 ニ い く ど な げ て も い つ で も お き る

カ ラ ダ ユ ス ツ テ ム ツ ク ト オ キ テ
 か ら だ ゆ す つ て む つ く と お き て

ア チ ラ フ ム イ テ ダ マ ツ テ ス フ ル
 こ ち ら を む い て ひ と を ば に ら む

オ キ ヤ ガ リ コ ボ シ ハ オ モ シ ロ イ
 お き や が り こ ぼ し は を か し い な

四人形

一、わたしの人形はよい人形。

目はぱつちりと、いろじろで、

小さい口もと、愛らしい。

わたしの人形はよい人形。

二、わたしの人形はよい人形。

うたをうたへば、ねんねして、

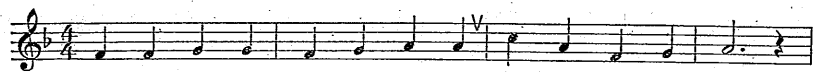
ひとりでおいても、泣きません。

わたしの人形はよい人形。

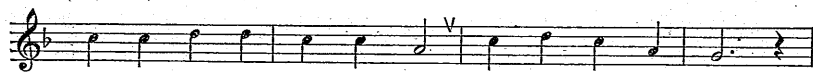
人形

♩=104

人形



一、ワタシノニンギヤウハヨイニンギヤウ
ニ、わたしのにんぎやうはよいにんぎやう

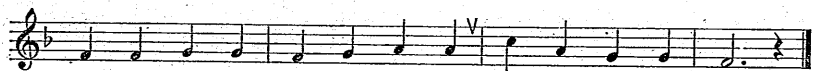


メハバツチリトイロジロデ
うーたをうたへばねんねして



チヒサイクチモトアイラシイン
ひとりでおいてもなきません

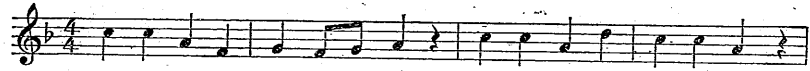
八



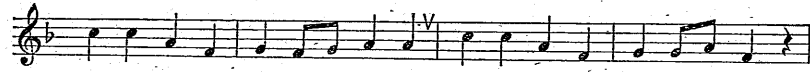
ワタシノニンギヤウハヨイニンギヤウ
- - - - -

♩=112

ひ よ こ



一 ヒヨ ヒヨ ヒヨ コ ナヒサナ ヒヨ コ
ニ ひよひよ ひよこ かはいひよこ



キヤウダイナカヨク イツシヨニ アルケ
いつでも おやに だかれて ねむれ



ア シノ ツヨク ナラヌ ウチニ
はねのながく ならぬうちに



トホクヘイクナ ヒトリデイクナ
はなれて ねるな ひとりで ねるな

五 ひよこ

一 ひよくひよこ ちひさなひよこ

兄弟^{ケイテイ}なかよく 一^ちしよに歩^まり。

あしの強^{ツヨク}く ならぬうちに

とほくへ行^いくな ひとりで行^いくな。

ニ ひよくひよこ、 かはいひよこ、

いつでも親^{オヤ}に だかれて眠^ねれ。

はねの長^{なが}く ならぬうちに

離^{はな}れて寐^ねるな ひとりで寐^ねるな。

六、かたつむり

一、でんく虫々 かたつむり、

お前のあたまは どこにある。

角だせ槍だせ あたまだせ。

二、でんく虫々 かたつむり、

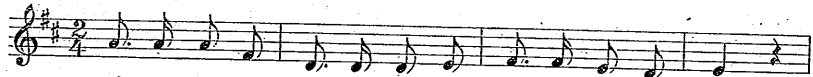
お前のめだまは どこにある。

角だせ槍だせ めだま出せ。

かたつむり

♩=92

かたつむり



一 デンデン ムシムシ カタツムリ
二 でんでん むしむし かたつむり



オマへのアタマハドコニアル
おまへのめだまはどこにある

二



ツノダセヤリダセアタマダセ
つのだせやりだせめだまだせ

七、牛若丸

一、京の五條の橋の上、

大のをとこの辨慶は

長い薙刀ふりあげて

牛若めがけて切りかゝる。

二、牛若丸は飛び退いて、

持った扇を投げつけて、

来い〜と欄干の

上へあがつて手を叩く。

三、前やうしろや右左

ここと思へば又あちら、

燕のやうな早業に、

鬼の辨慶あやまつた。

牛 若 丸

♩=92

牛若丸

二四

一 二 三
 キウ ヤ ッ ノ ゴ デ フ ハ シ ノ ウ ヘ
 マ シ ー わ へ か ヤ ッ シ ム の い て
 コ ト コ ノ タ ヲ ト コ ノ ベ ナ シ ン ケ イ ハ
 コ ヲ コ ト オ モ ヲ シ ン マ タ タ ア チ ラ
 ナ ナ ナ ナ タ フ リ ア ゲ テ
 コ ツ バ メ ノ ヤ ツ ナ と ナ ら ん カ ワ ギ ズ ニ
 ウ シ ワ カ メ ガ ケ テ キ リ カ カ ル
 オ ー ヘ ノ ン ガ ケ テ ア ヤ マ ツ タ

八夕立

一、降るく夕立。
鳴るく雷。

小川にめだかを

取つてゐた子供は、

箆を被つて

急いで歸る。

二、照るくお日様。

飛ぶく白雲。

學校にはれまを

待つてゐた子供は、

本をかへて

静かに歸る。

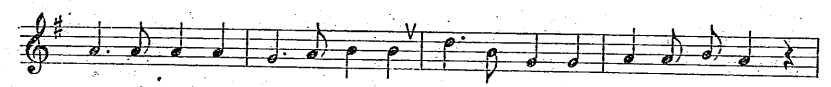
夕立

♩=112

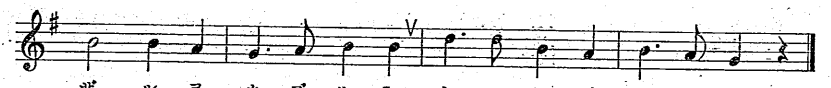
夕立



フルフルユフダチナルナルカミナリ
ニてるてるおひさまとぶとぶしらくも



コガハニメダカヲトツテキタコドモハ
がつかうにはれまをまつてゐたこどもは



ザルヲカブツテイツイデカヘル
ほんをかかへてしづかにかへる

一六

九 桃太郎

一、桃太郎さんく、

お腰につけた黍團子、

一つわたしに下さいな。

二、やりませうく、

これから鬼の征伐に、

ついて行くならやりませう。

三、行きませうく、

あなたについて何處までも、

家來になつて行きませう。

四、そりや進めく、

一度に攻めて攻めやぶり、

つぶしてしまへ鬼が島。

五、おもしろいく、

のこらず鬼を攻めふせて、

分捕物をえんやらや。

六、萬々歳 萬々歳、

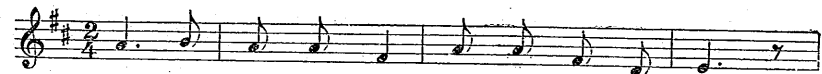
お伴の犬や猿雉子は、

勇んで車をえんやらや。

桃太郎

♩=112

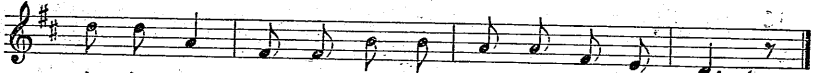
桃太郎



サンウツメイザイ
ウゼセテロン
タマヤナシバ
モリキヤモン
モロイオガバ
サウウツメイザイ
ラセセテロン
タマヤナシバ
モリキヤモン
モロイオガバ



ニモリテバ
ンウツメセジ
ガバマフキ
ビイコメメ
キセドセセキ
タノテテヤ
タノイメニワ
ツオツセオイ
ニラニズ
シカタドラ
コレナチコ
オニアハハ



ナラウマヤ
イゼセシラ
サマヤガヤ
ダリキニン
クワイオエ
ニラニを
シナテヘチマ
タクツモノ
ライナシモク
ツテニテリ
ソイシド
トイラフン
ヒラクツツ

一〇、朝 顔

一、毎朝 毎朝

咲くあさがほは、

をたとひきのふと

だんくふえて、

今朝はしろ四つ

むらさき五つ。

二、大きな荅は

あす咲く花か。

ちひさなつぼみは

あさつて咲くか。

早く咲け咲け、

絞りや赤も。

(秋季 始業 尋常小學校本巻二所載)

朝 顔

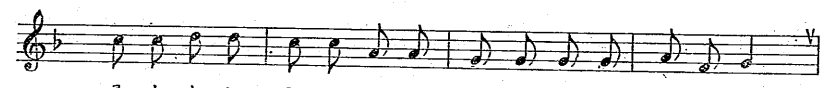
♩=84

朝

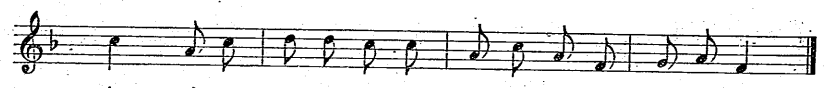
顔



一 マ イ ア サ マ イ ア サ サ ク ア サ ガ ホ ハ
二 お ほ き な つ ぼ み は あ す さ く は な か



フ ト ト ヒ キ ノ フ ト ダ ン ダ ン フ エ テ
ち ひ さ な つ ぼ み は あ さ つ て さ く か

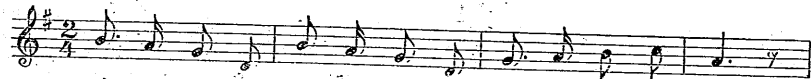


ケ サ ハ シ ロ ヨ ツ ム ラ サ キ イ ツ ツ
は や く さ け さ け し ば り や あ か も

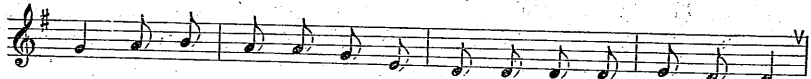
110

♩=96

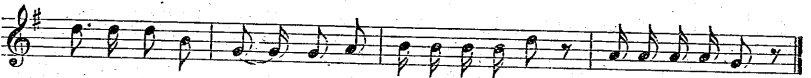
池の鯉



一 デテコイ デテコイ イケノコヒ
ニ でてこい でてこい いけのこひ



ソコノ マツモノ シゲツタ ナカデ
きし の や なぎ の し だ れ た か げ へ



テノナル オートヲ キイタラコイ キイタラコイ
なげ た や き ふ が み え た ら こ い み え た ら こ い

一、池の鯉

一、出て来い 出て来い 池の鯉。

底の松藻のしげった中で、

手のなる音を聞いたら来い。

二、出て来い 出て来い 池の鯉。

岸の柳のしだれた蔭へ、

投げた焼麩が見えたら来い。

二、親の恩

一、軒に巢をくふ 燕を見たか。

雨の降る日も 風吹く日にも、

親は空をば あつちこつち飛んで、

虫をとつて来て 子に食べさせる。

二、ひよこ育てる 牝鶏見たか。

こころこころこと 子供を呼んで、

庭の隅やら はたけの中で、

餌をば探して 子に拾はせる。

親の恩

♩=112

親の恩

二ノ キニ スヲ クフ ツバ メヲ ミタ ーカ
 ニひ よこ そだ てる めん どり み た ーか

ア メ ノ フ ル ヒ モ カ ゼ フ ク ヒ ニ モ
 こ こ こ こ と ー こ ど も を よ ん で

オ ヤ ハ ソ ラ ヲ バ ア ツ チ コ ツ チ ト シ デ
 に は の す み や ら は た け の な か で

ム シ ヲ バ ト ツ テ キ テ コ ニ タ ベ サ セ ル
 る を ば さ が し て こ に ひ ろ は せ る

♩=84

鳥



カ アカ アカ ラス ガ ナ イテ イ ク



カ ラ ス カ ラ ス ド コ ヘ イ ク



オ ミ ヤ ノ モ リ ヘ オ テ ラ ノ ヤ ネ ヘ



カ アカ アカ ラス ガ ナ イテ イ ク

三鳥

かあ〜

鳥が

啼いていく。

からす〜

何處へ行く。

お宮の森へ、

お寺の屋根へ、

かあ〜

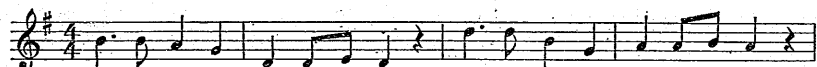
鳥が

啼いて行く。

(經常小學讀本卷一所載)

菊の花

♩=108



一ミゴトニサイータカキネノコギーク
ニみごとにさい一たかきねのこぎ一く



ヒトツトリタイキイロナハナヲ
ひとつとりたいまっしろなはなを



ヘイタイアソ一ビノクンシャクニ
ままごとあそ一びのこちそうに

一四 菊の花

一、見事に咲いた

かきねの小菊

一つ取りたい、

黄色な花を、

兵隊遊びの

勳章に。

二、見事に咲いた

垣根の小菊

一つ取りたい、

眞白な花を、

飯事遊びの

御馳走に。

一五、月

一、出た〜月が、

圓い〜まんまるい
盆のやうな 月が。

二、隠れた雲に、

黒い〜まつくろい
墨のやうな 雲に。

三、また出た月が、

圓い〜まんまるい
盆のやうな 月が。

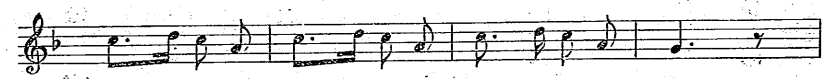
(尋常小學校本卷一所載)

月

♩=88



一 デ タ デ タ ツ キ ガ
二 か く れ た く も に
三 マ タ デ タ ツ キ ガ



マ ル イ マ ル イ マ ツ マ ル イ
く ろ い く ろ い ま つ く ろ い
マ ル イ マ ル イ マ ツ マ ル イ



ボ ン ノ ヤウ ナ ツ キ ガ
す み の やう な く も に
ボ ン ノ ヤウ ナ ツ キ ガ

一六、木の葉

一、何處から来たのか 飛んで来た木の葉
 くるくまはつて 蜘蛛の巣にかゝり、
 風に吹かれて ひらくすれば、
 蜘蛛は蟲かと寄つて来る。

二、何處から来たのか 飛んで来た木の葉
 ひらく舞つて来て 池の上におちて、
 波にゆられて ゆらくすれば、
 鯉は餌かと浮いて来る。

木の葉

木の葉

♩=92

一ド コ カ ラ キ タ ノ カ トン デ キ タ キ ノ ハ
 ニド コ カ ラ キ タ ノ カ トン デ キ タ キ ノ ハ

ク ル ク ル マ ハ ツ テ ク モ ノ ス ニ カ カ リ
 ひ ら ひ ら ま つ て き て い け の う へ に お ち て

カ ゼ ニ フ カ レ テ ヒ ラ ヒ ラ ス レ バ
 な み に ゆ ら れ て ゆ ら ゆ ら す れ ば

ク モ ハ ム シ カ ト ヨ ツ テ ク ル
 こ ひ は ゑ さ か と う い て く る

一七 兎

一、私は兎と申すもの、

顔や體の小さい割に、

耳の長いのが何より自慢。

皆さんよく見て下さいな。

二、藝はこれとて無いけれど、

前脚短く後脚長く、

飛んで跳ねるのが誰より上手。

皆さん囃して下さいな。

兎

兎

♩=96

ワタシハウサギトマウスモレノニゲーイはこれとてないけれど

カホヤカラダノチヒサイワリニカマへあしみじかくあとあしながく

ミミノナガイノガナニヨリジマンとんでねるのがだれよりじやうす

ミナサンヨクミテクダサイナみなさんはやしてくださいな

一八 紙鳶の歌

一、紙鳶紙鳶揚れ。

風よくうけて、

雲まで揚れ。

天まで揚れ。

二、繪紙鳶に字紙鳶。

どちらも負けず、

雲まで揚れ。

天まで揚れ。

三、あれく下る。

ひけひけ絲を、

あれく揚る。

放すな絲を。

(尋常小學校本巻二所載)

紙鳶の歌

♩=112

紙鳶の歌

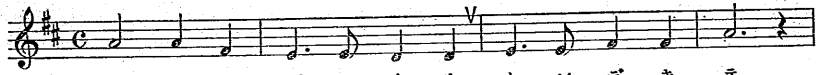
タタア コだレ タタア コにレ アヒサ ガだガ レルル
カドヒ ゼちケ ヨらヒ クもケ ウまい ケケト テテヲ
ククア モもレ マまア デでレ アあア ガガガ レレル
テてハ シんナ マまヌ デでナ アあイ ガがト レれヲ

三六

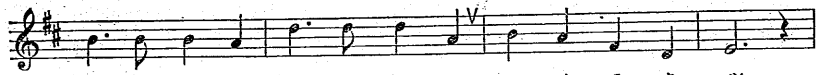
犬

♩=120

犬



一 ツ ト ヘ デ ル ト キ ト ン デ キ テ
ニ う ち ヘ カ ヘ る と を を ふ つ て



オ ツ テ モ オ ツ テ モ ツ イ テ ク ル
た も と に す が つ て う れ し が る

三八



ボ チ ハ ホ ン ト ニ カ ハ イ イ ナ
- - - - -

犬

一九 犬

三九

一、外へ出る時とんで来て、

追つてもく附いて来る。

ぼちはほんとに可愛いな。

二、内へ歸ると尾を振つて、

袂に縋つて嬉しがる。

ぼちはほんとに可愛いな。

二〇、花咲翁

一、正直翁が灰まけば

野原も山も花ざかり。

殿様大層よろこんで

ぢいに褒美を下される。

二、意地悪翁が灰まけば

目鼻も口も灰だらけ。

殿様大層はらを立

ぢいに繩をかける。

花咲翁

♩=84

花咲翁

一 シヤ ッ デ キ チ デ イ ガ ハ ヒ マ ケ バ
 二 い ぢ わ る ぢ ぢ い が は ひ ま け ば

ノ ハ ラ モ ヤ マ モ ハ ナ ザ カ リ
 め は な も く ち も は ひ だ ら け

ト ノ サ マ タ イ ソ ウ ヨ ロ コ ン デ
 と の さ ま た い そ う は ら を た だ て

デ デ イ ニ ハ ウ ビ ヲ ク ダ サ レ ル
 ぢ ぢ い に な ー は を か け ら れ る



發行所

株式會社國定教科書共同販賣所
東京市日本橋區新右衛門町十六番地

印刷所

株式會社東京樂地活版製造所
東京市京橋區樂地三丁目十七番地

印刷者

野村宗十郎
東京市京橋區樂地三丁目十一番地

發行者

代表者大橋新太郎
株式會社國定教科書共同販賣所
東京市日本橋區新右衛門町十六番地

不許複製

著作權者 文部省

明治四十四年五月八日發行
明治四十四年五月五日印刷

定價金五錢
尋常小學校第一學年用

21307-2-1

東京

東京市日本橋區樂地三丁目十一番地
株式會社東京樂地活版製造所

